

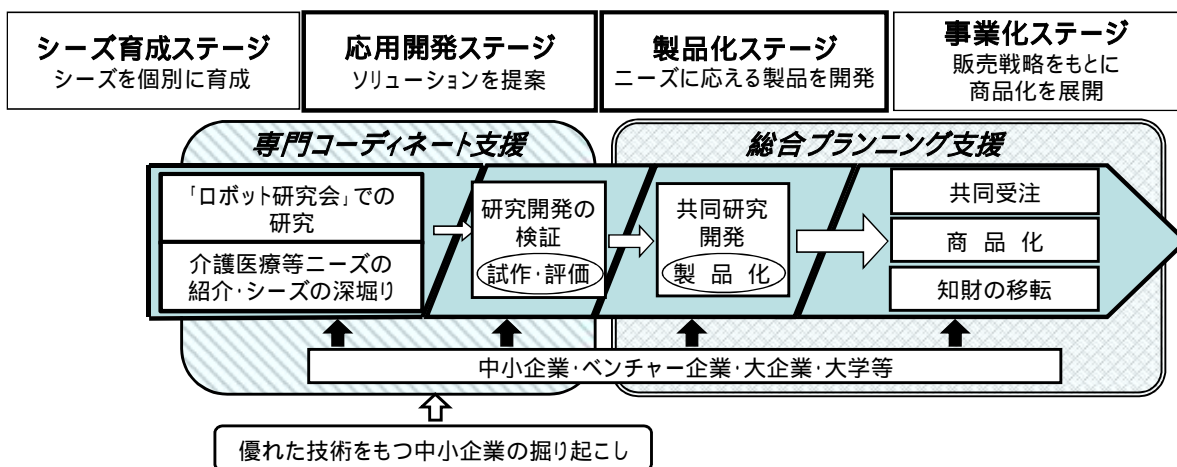
神奈川版オープンイノベーションの展開

1 平成 26 年度の取組について

平成 25 年度に立ち上げた共同研究開発プロジェクトを支援するとともに、ロボット研究会において、介護医療等ニーズの紹介、シーズの深掘りを行い、新たに3つのプロジェクトの立ち上げを目指す。

また、ロボット研究会の取組を進めていく中で、災害対応ロボットの活用範囲の拡大や初期需要の創出、生活支援ロボットの観光面での活用など、生活支援ロボットの需要拡大方策についても検討する。

< 神奈川版オープンイノベーションの流れ >



2 生活支援ロボット開発支援機器の整備について

生活支援ロボットの開発・実用化を促進するため、次のとおり、製品の信頼性を評価する機器を産業技術センターに整備する。なお、平成 25 年度に整備した高度な試作を行うことのできる機器（レーザー加工機、高性能パワーモジュール試作装置）と合わせて対外的にPRし、活用促進を図っていく。

(1) 振動試験機

ロボット等の工業製品や部品に対して、使用環境などを想定したさまざまな振動や衝撃を与えることができる装置。装置のテーブルに試作品等を載せて、これを加振することで過酷な環境を再現し、試作品の機能や耐久性などを確認することができる。

(2) 複合サイクル試験機

短期間でロボットの耐食性（腐食しにくい性質）を評価する装置。

当装置は二つのユニットで構成され、大型ユニットでは人と同程度の大きさのロボット本体などについて塩水噴霧試験、乾燥試験、湿潤試験を組み合わせ、繰り返し行う複合サイクル試験を行うことができる。小型ユニットでは、塩水浸漬試験を加えた複合サイクル試験を行うことができる。